

地域包括ケアに関する取組み

東 区

令和8年3月末現在

○概況

【人口動態、地形、生活環境等の地域特性】東区は市内で最多の人口で、増加傾向は継続。多々良川や三日月山、海の中道等、豊かな自然に恵まれる一方、アイランドシティや千早・香椎駅周辺、九大箱崎キャンパス跡地等、新しいまちづくりが進み、若い世代の転入も多く、校区により違いがある。また4つの大学があり、学生も多い。

【高齢者の状況（高齢化率や介護保険受給者状況）】高齢化率は、50%を超える校区がある一方、5%程度の校区もある等、地域差が大きい。

【社会資源（介護サービス事業所や医療機関、地域コミュニティの状況）】丘陵地の校区や市営住宅・県営住宅等の大規模団地が多い校区では、高齢世帯が増えているため、地域での担い手不足も課題となっている。また、介護サービス事業所等数が少ない等、地域によって社会資源等の状況が異なる。なお、東区全体を13事業所ネットワークがカバーしており、地域での生活支援・介護予防活動について、地域と連携した取組みを行っている。

人口（人）	334,896
高齢者数（人）	74,874
高齢化率（%）	22.4
小学校区数	31
いきいきセンター圏域数	11

○地域包括ケアに関する現状と課題

○医療・介護：多職種連携研修会を3回実施。テーマは1回目「精神科訪問診療と福岡市東区での多機関協働の実際～これからの協働していくために～」、2回目「仕事と介護の両立を多職種で支える視点～望まない離職を防ぐために～」、3回目「多職種で高める在宅医療・介護の質」とした。3回目では、ワールドカフェ形式でグループワークを実施。多職種で直に意見を交わす機会になり顔の見える関係づくりができた。また、様々な職種の意見を聞くことで新たな気付きになっている。今後も多職種連携企画委員会で、在宅医療・介護の市民啓発事業と研修会についてテーマ・実施方法を検討し、多職種間の連携強化につなげていく。

○生活支援・介護予防：R5、6年度に引き続き、R7年度もブロック支援病院へのヒアリングとブロック支援病院及びMSWがいる病院の実務担当者交流会を開催した。また、事業所ネットワーク交流会にMSWがいる病院への参加を呼びかけ、全2病院の参加があり、連携の広がりを図っている。

○若い世代から、認知症の正しい理解促進を図るきっかけとして、認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座「認知症声かけ体験」等を、事業所ネットワーク・認知症ライフサポートワーカーと協働して進めている。「認知症声かけ体験」では、企画段階から地域と事業所ネットワーク等が顔を合わせて地域課題について協議する場を設けており、地域特性に応じた内容になるよう工夫して取り組んでいる。

1. 令和8年度取組みの中で、特徴あるもの

取組み内容

(1) 東区認知症に優しいまちづくり事業

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる東区を目指し、若い世代を含めすべての区民が認知症を正しく理解できるよう、地域・大学・事業所ネットワーク・認知症ライフサポートワーカーと連携し、認知症の普及啓発等を行う。

東部地域3大学（福工大、九産大、福女大）と連携した認知症啓発事業

認知症サポーター養成講座
各大学の要望に合わせた講座（声かけ体験の要素を含む）を実施予定

HP「東区認知症オレンジちゃんねる」の広報周知

企業等への啓発

啓発カードやHP紹介動画を活用し、デジタルサイネージ等でさらに周知

まちづくりガイドを活用した認知症講座を開催予定

(2) 医療・介護・地域との連携強化

- ①事業所ネットワーク等の活動の活性化、相互の協力・連携体制の構築、つながりづくりのために、交流会を開催する。
- ②イオンモール香椎浜と連携した居場所「大人のいいなホール」を医療・介護事業所と連携して開催する。

事業所ネットワーク等交流

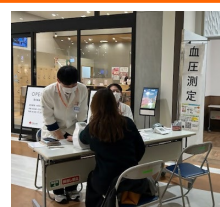


他区の事業所NWの取組事例発表

大人のいいなホール～おヒマなら来てよね♪～



イオンモール内ウォーキング



健康チェックコーナー

2. 令和7年度の取組み状況

(1) 地域ケア会議の状況

① 個別支援における成功事例、課題など（個別支援会議の傾向など）

【検討内容】認知症がある単身生活の方、障がいがある家族へも支援が必要な方、キーパーソン不在等、支援が必要な事例の会議を開催。ケアマネや事業所の他、警察・住宅関連・金融機関・区障がい者基幹相談支援センター等にも出席を依頼し、世帯全体の課題解決に向けた連携を行っている。

個別支援会議開催状況 ・会議回数：165回（うち介護予防型個別支援会議32回）

② 住民同士の助け合い・支えあい活動

◎ 事業所ネットワークがなみきスクエアで医療介護フェスを開催

なみき医療・介護フェス
来て・見て・楽しむ体験型イベント
2026. 3.14 10:00～15:00

無料体験 おともこどもも楽しめます！

- 認知症 A 尺体験
- 階段昇降機体験
- 骨密度測定 (100%の測定 体成分分析装置)
- 福祉用具 展示会
- 健康相談 医師予防相談
- 介護講座
- レクリエーション体験
- 立位バランス測定
- 血管観察 遠方体質測定
- 介護講座
- 介護予防相談

10:30～11:30 認知症講座 (福岡市認知症フレンドリーセンター)
13:00～14:00 口腔講座 (別府歯科 副院長 中尾裕先生)
14:20～14:50 地域の相談窓口 (東区いきいきセンターさくさく)

開催会場 なみきスクエア1階 ひまわりひろば
主催 区民会館
協賛 協賛事業所

レクリエーションブース

「千早・千早西・香陵校区のみなさまに事業所ネットワークを知ってもらいたい」という思いから、なみきつながりネットが「なみき医療・介護フェス」を実施。事業所の特性を活かし、医療ブース・福祉介護ブース・レクリエーションブース等を出展。(来場者172名、28事業所・団体、協カスタッフ72名)

◎ 事業所×地域のボランティアで地域カフェを実施

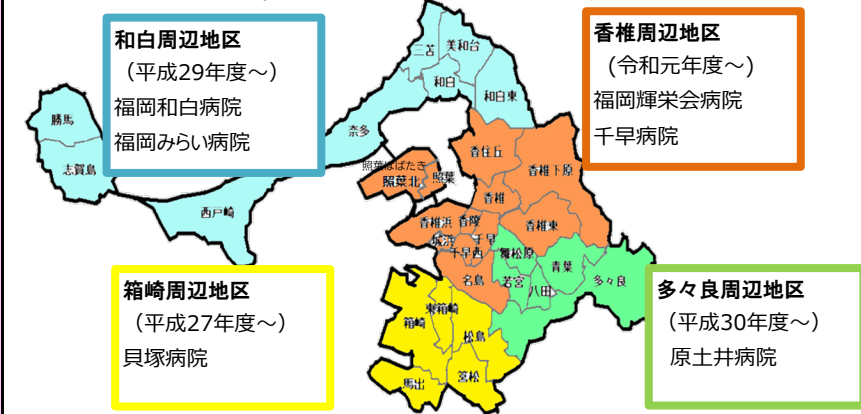
誰でも気軽に参加できる地域カフェ
2/14(土) 14:00～16:00
お飲み物は各自で用意ください
フレンドリーな雰囲気
2026年2月14日(土) 14:00～16:00
会場：なみきスクエア1階
参加費：無料
お問い合わせ：093-821-1111

「校区内に誰でも気軽に参加できる地域カフェを開催すること」を目的として、事業所のスペースを活用した地域カフェを、4事業所と地域のボランティア、駄菓子屋、在宅マッサージ業者で開催。当日は小学生を含め、45名が来場。(協カスタッフ22名)

高齢者地域支援会議 開催状況 ・会議開催校区（地区）数11校区（地区）、延べ回数：24回
・内容：高齢者の実態・課題について意見交換し、地域で高齢者を支えるための解決策や取組みの検討。

③ 在宅医療・介護連携や多職種連携の推進に向けた取組み

ブロック支援病院・事業所ネットワーク・地域との連携



区内4ブロックにおいて、ブロック支援病院、医療・介護専門職、地域で生活支援・介護予防等の実施に努め、また、地域包括ケア連携会議等を実施している地区もある。令和7年度は、引き続きブロック支援病院同士の連携を図るために、ブロック支援病院及びMSWがいる病院の実務担当者交流会を開催。また、ブロック支援病院等が事業所ネットワーク等交流会に参加し、事例発表を行うなど、事業所ネットワークとの連携・つながりづくりが進んでいる。

圏域連携会議開催状況 ・会議回数：5回
・高齢者の見守りや支援、ネットワーク構築についての会議を実施。

④ 区レベルの取組み（特徴ある取組み）

区地域包括ケア推進会議開催状況 ・区地域包括ケア推進会議：1回
・部会 ①在宅医療・介護部会：1回、②権利擁護部会：1回、③生活支援・介護予防部会：1回
地域や事業所ネットワーク等との連携と情報共有の場づくりの検討について、市推進会議に報告した。

(2) その他、在宅医療・介護連携の推進に関する取組み、事業所ネットワークの活動等

取組み	具体的内容
多職種連携研修会	東区医師会、東区保健福祉センターの共催で開催。(3回、計256名参加)
市民向け在宅療養シンポジウム	地域住民のための東区在宅療養シンポジウム2025「かかりつけ医を持つ重要性とACP(アドバンス・ケア・プランニング)について」を開催。(1回、124名参加)
同一業種による連絡会への出席 ①訪問看護 ②小規模多機能 ③ケアマネ ④グループホーム	医療や介護連携に関する情報提供や課題の確認、家族の会への支援を行った。①～④共に継続し後方支援を行う。
事業所ネットワーク	・地域にある福祉施設・介護事業所・医療機関等がネットワークをつくり、ネットワーク内で顔が見える関係性を築くとともに、地域の健康づくり(出前講座、体操講師等)や生活支援・買物支援等にボランティアとして協力している。 ・令和8年3月末現在、13団体が結成され、東区の全校区にて活動を行っている。 ・障がい者基幹相談支援センターや障がい関連事業所、大学や企業等が参加する事業所ネットワークも増えている。
よかトレ実践ステーション登録推進	令和7年度末現在、31校区、207か所を創出している。
ロコモ予防啓発事業	①ロコモ予防啓発台紙付きフリージングパックの作成・配布(区内小学校等、約2万枚) ②イベントを活用した啓発活動(東区安全安心まちづくりイベント、アイランドシティフェスティバル等)